

周防大島町の話題

芸人と東大生が小学校で特別授業

10月28日、町内の小学6年生の希望者33人を対象とした、吉本興業のお笑い芸人と東京大学の学生による特別授業「芸人×東大生 特別授業 in 周防大島」が東和小学校にて行われました。

これは、東京大学と吉本興業が立ち上げた「笑う東大、学ぶ吉本プロジェクト」の一環として行われたプログラムです。吉本興業の芸人と東大生が打合せを重ね考案したオリジナルの内容を、2クラスに分け5時限で行われ、各教科を担当する芸人が東大生とともに授業を進めました。

エルフのはるさんと荒川さんによる校内放送により、体育館に全員集合。ココリコ田中直樹さんが出席をとり、特別授業が幕を開けました。



◀理科の授業を行うココリコ田中さん

理科はココリコ田中直樹さんが担当。「生まれ変わったら何の生き物になりたいか」をテーマに、なりたい生き物はどのような生活環境にあるのかも調べ、その生き物を通して、地球の環境問題を自分ごととして考える時間となりました。

英語は元国際線の客室乗務員のCRAZY COCOさんが担当。自然な発音に近づくためのレッスンやゲームを交え楽しく英語を学びました。

社会はロバート山本博さんが担当。吉田松陰を紹介するミニ紙芝居や、「戦国時代にタイムスリップしたら」をテーマに、東大生が織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に扮し、自身の偉業をアピール。自分ならどの武将に仕えたいかという人気投票が行われました。また、自分なら周防大島のどこに城を建てるかを各自が考え発表しました。

国語はフルーツポンチ村上健志さんが担当。「秋の学校」をテーマに、校舎や校庭などで学校の景色を見つけて、俳句作りを行いました。



◀サッカーで好プレーをみせた児童を抱き上げるパンサー尾形さん

最後の授業となった体育はパンサー尾形貴弘さんが担当。児童、芸人、東大生、全員参加の20人対20人のサッカーが行われました。

すべての授業を終え、帰りの会では、児童1人ずつ名前を呼ばれて修了証が手渡され、芸人と東大生全員とハイタッチをし、特別授業の幕を閉じました。



▲ボランティア活動を通して感じたことを主張する北村檜樹さん

中学校生徒の主張発表大会

11月7日、第73回目となる大島郡中学校生徒の主張発表大会が橘総合センターにて開催されました。

これは、「社会を明るくする運動」の一環として大島保護区保護司会などが主催し開催したもので、6人の中学生が明るい社会をつくるためにできることなどについて発表を行いました。

発表者は、いじめや犯罪のない社会にするためにできること、地域の人と人のつながりの大切さなど、自分の考えや体験から感じたことを主張しました。審査の結果、大島中学校2年の北村檜樹さんが最優秀に選ばれました。